

ピースウィンズ・ショップから

夏到来!サマーギフト・水出しコーヒーはいかがでしょう

夏といえば、アイスコーヒー! スッキリとしたきれいな味わいで、しかもご自宅を手軽に作れる東ティモールの有機水出しコーヒーはいかがでしょう。ポットに入れて一晩漬けておくだけで、翌朝には本格水出しコーヒーが作れる優れもの! ぜひお試しください。

また、毎年好評のおかし屋ばれっとさんのクッキーとコーヒーのセットなど、お中元にピッタリの各種ギフトの販売を開始しました! お世話になったあの方へ、ピースウィンズのギフトをぜひご利用ください。
※なお、クッキーの賞味期限は1カ月となっております。贈り物としてご注文の際にはご注意ください。



ご注文は、<https://pwshop.ocnk.net/>

FAX:03-3465-2112 または TEL:03-5738-8021まで

※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。

東ティモールフェスタ 2019 無事終了しました!

今年はピースコーヒーのふるさと東ティモールが主権を回復(独立)してから17年目にあたる年。日本でも、東ティモールの独立記念日にあわせて、東ティモールに関わりのある企業、大使館、自治体、団体、NPO等が協働して東ティモールフェスタ2019を上智大学で開催しました。東ティモールの「知って」「味わって」「つながる」という目的の下、東ティモール料理のお弁当の販売、東ティモールの文化・コーヒーに関するトーク、東ティモール映画の上映、東ティモール人留学生による歌と踊りなど、文字通り、日本にいな「東ティモールの体感」できる時間・空間となり、大いに盛り上がりました。

PWJは当日、ピースコーヒー販売の他、他団体と合同でカフェブースを出展し、栽培地や標高で味が違う3種類のコーヒーの飲み比べをしました。今年は東ティモール産カカオを使用したチョコレートファウンテンも提供し、たくさんの方から「美味しい」と言っていました!

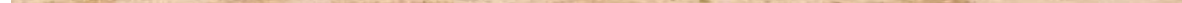


必要な人々に
必要な支援を

土砂崩れの被害を受けたみかん畑の一部



土砂崩れにより被害を受けたみかん畑を整備する
コミサボひろしまの皆さんとPWJスタッフ



すべての日常が一変してしまったあの日から、間もなく1年を迎えます。

広島県・岡山県・愛媛県を中心に、広い地域が被害を受けた西日本豪雨災害(平成30年7月豪雨)。ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)は発生直後のレスキューチームの派遣に始まり、現在まで支援を続けています。

広島県では、広い地域で土砂崩れや浸水が発生し、県内14市9町の全てが被災しました。特に呉市、安芸郡坂町、広島市では大きな被害があり、PWJの本部がある神石高原町でも土砂崩れが起きました。

2014年の広島土砂災害をきっかけに立ち上がった地元の任意団体「コミサボひろしま」は、広島市安佐南区を拠点に、被災地域の復興まちづくりに繋がるイベントなどをPWJと協働で行ってきました。今回の西日本豪雨災害では、発災直後に呉市で食糧や生活物資の配布を開始し、次いで土砂の撤去作業を行いました。重機を使って土砂に埋もれてしまった家や庭、道を掘り出す作業。家の中から手作業で土砂をかき出し、壊れた壁や床、建具を取り除いて残った梁を清掃・消毒し、再建ができるよう整える作業。近隣だけでなく全国から駆け付けた大勢のボランティアさんたちと一緒に、発災から1年を迎えようとしている今なおこの活動は続いています。

コミサボひろしま代表の小玉さんは、「自分たちが被災したときにいただいた支援を恩返ししたいという気持ちで、これまで活動が続けてきました。ここは、みかん畑だったのですが、土砂で流されたあと地主さんがたった一人で土砂撤去をされているのを見て、ここでの活動を決めました。みかんがおいしくなる頃には、またみかん狩りのお客さんが来てくれるといいなと思います。」と話してくれました。PWJは今後も「コミサボひろしま」の復興に向けた活動をサポートしていきます。

また、およそ三分の一が水没した岡山県倉敷市真備町でも、今後も安心して暮らしていける、戻って来られるコミュニティ作りに、地域の皆さんと一緒に取り組んでいます。

発災からもう1年、まだ1年。PWJは、日常を取り戻す活動をこれからも続けていきます。

※この事業は、西日本豪雨災害支援募金《YEN》のご協力および皆さまからのご寄付により実施しています。



シーズン前に実がなり始めたみかん

支援地レポート

ケニア 快適で衛生的なトイレを新たに設置

ピースウィンズ・ジャパンが活動するカロベエイ難民居住地区では、トイレの大半が「ぼとん便所」です。1つのトイレを平均4家族が共有しているため、汚れたまま放置されている場合も多く、決して衛生的とは言えません。この問題を解決するため、PWJはトイレメーカーであるLIXILさんが開発した簡易トイレ「SATO」を使い、障がいを持つ人や高齢者がいる等の50軒の家庭用トイレを新たに建設しました。



建設中のSATOトイレシステムを使用したトイレ

パレスチナ 若者の失業対策として職業訓練を開始

パレスチナ・ガザ地区の封鎖は今年で10年を超えました。その中でも特に問題となっているのは若者の失業率です。2018年前期の全体失業率は54%と世界最悪の水準で、その中でも青年失業率は70%にも達しました。PWJは昨年より、若者を対象とした「コミュニティ職業技術訓練センター」事業に取り組んでおり、今年3月から太陽光発電管理システムやスマートフォン管理などの訓練研修が始まりました。この事業ではガザ地区に住む1,200人の若者を対象に訓練を実施する予定です。将来に希望を持てるよう、PWJはガザ地区の若者に対する支援を継続します。



グラフィック・デザインを学ぶ生徒たちの様子



発行:特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
本部事務所:〒720-1622 広島県神石郡神石高原町近田1161-2 2F ☎0847-89-0885(代表)
東京事務所:〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2F ☎03-5738-8020 フリーダイヤル ☎0120-252-176
佐賀事務所:〒840-0831 佐賀市松原1-3-5 ゼロワン佐賀ビル6F ☎0952-20-1607
ホームページ:<https://peace-winds.org/> Eメールアドレス:meet@peace-winds.org

※発行人/大西健彦 編集責任者/里崎三 執筆協力/竹中奈津子 レイアウト/菅野加代子

～緊急支援事業～

モザンビークでサイクロン被災者支援を開始

3月4日にモザンビーク海峡で発生したサイクロン・イダイは、強風・豪雨・洪水・土砂災害を伴い、モザンビーク、マラウイ、ジンバブエの3か国を中心に大規模な被害を与えました。特に被害の大きかったモザンビークでは、死者603人、負傷者1,643人、全半壊した家屋は約22万棟にのぼります。PWJは、2名のスタッフをモザンビークに派遣し、調査を行いました。また、5月には食糧、蚊帳、石けんなどを被災者に配布しました。被災地では、避難所支援、新しい地域への移住支援、元の家への帰還支援が行われています。PWJは、今後の災害への対応力を高めることも念頭に、被災者に寄り添った支援を行いたいと考えています。



被災者が生活する避難所の様子



「ここまで水が来た!」と話す被災者の女性

ネパール南部の豪雨被災者に物資を配布

3月末に発生した豪雨・竜巻により、ネパール南部では30人が死亡、400人以上が負傷しました。特に被害の大きかったバラ郡周辺では、瞬間最大風速が100メートル以上あったため、多くの人が家畜、家財道具、家そのものを失いました。



被災した家の前に立つ女性

ネパール政府は最低限の食糧やテントを支給していましたが、元通りの生活を営むにはほど遠い状況でした。これを受け、PWJは現地提携団体と協力して、被災した319世帯（約2,400人）に食器や食糧、衛生用品などの物資を配布しました。



支援物資配布後に住民と話すPWJスタッフ

韓国の山火事被災者を支援

4月4日に韓国北東部で発生した大規模な山火事を受け、PWJは現地で支援にあたるアジアパシフィックアライアンス・コリア（A-PAD KOREA）と共に被災者支援活動を実施しました。山火事により約470軒の家が燃え、一時800人以上の住人が避難生活を強いられました。PWJとA-PAD KOREAは7カ所の避難所（約300人）に衣類200着、下着上下600枚、洗濯洗剤などの生活必需品を配布しました。また、妊娠している女性の被災者にはマタニティー用の衣料品やビタミン剤も配布しました。

山火事によって被災した地域の様子



PWJスタッフが避難所に支援物資を配布する様子



岡山県美咲町と緊急時の支援協力協定を締結

岡山県久米郡美咲町とピースウィンズ・ジャパン（PWJ）は「災害等緊急時における支援協力に関する協定書」の調印式を行いました。調印式には美咲町の青野町長、PWJ代表理事兼統括責任者の大西健丞が参加しました。PWJは現在、東京都葛飾区、杉並区、世田谷区、静岡県袋井市、岡山県笠岡市、岡山県美咲町、愛媛県上島町の計7つの自治体と防災協定を締結しています。



調印式の様子

北海道胆振東部地震から9カ月 仮設店舗で商店が営業再開

昨年9月に発生した北海道胆振東部地震から6月で9カ月が経ちました。今年4月には厚真町、むかわ町、安平町で、被災した商店が仮設店舗での営業を再開しました。また、安平町に道の駅がオープンしたり、震災の影響でスポーツをする環境がなくなってしまった子どもたちのためにスポーツクラブが立ち上げられたりと、復興に向けての様々な動きが続いています。PWJは、被災した方をはじめとするお客さんたちが商店を利用しやすいように、仮設店舗に看板やスロープ、防犯設備等を設置する支援を行っています。町の中心で営業する仮設店舗が、様々な世代の住民にとって、さらに安心して気軽に利用しやすくなるよう、商店主や町の関係者と連携して活動しています。



手すりやスロープを設置した仮設店舗の様子

ピースワンコ事業に新入社員12名が仲間入り

ピースワンコ・ジャパン・プロジェクトでは、2016年4月に広島県の犬の「殺処分ゼロ」を実現し、以来3年以上が経過しました。これまでの道のりは決して平坦ではありませんでしたが、皆さまのお陰で、新たな家庭に迎えられる保護犬は1,600頭を超えました。ご支援ありがとうございます。4月1日には新入社員として12名が仲間入りしました。



入社式の様子

PWJの活動にご協力ください

※認定 NPO 法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

【郵便振替】

口座番号：00160-3-179641

加入者名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等（国内の支援事業の場合はその事業名）を明記してください。

※領収書が必要な場合などにご連絡ください。ご連絡をいただかない場合、銀行振込ではご住所が分かりかねますので、領収書を発行できません。

【銀行口座】

●PWJの活動全般へのご寄付

銀行名：三井住友銀行 青山支店

口座番号：普通 1671932

口座名義：特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン広報口